

# 自閉症・発達障害特性シート WSOO1

日付： / /	氏名：Aさん (8歳)	記入者：水野	
特 性	本人の行動・様子・特性解説	指導・支援の方向性	
コミュニケーション・社会性	<b>受容コミュニケーションの特性</b> 言語指示の理解の困難さ、字義どおり理解する、言語指示やその他の情報を整理してつかむことができない、情報を部分的に理解するなど	言語指示だけでは活動の見通しやポイントを理解することが難しい。参考資料や言語指示、状況など複数の情報から自分に必要な情報を整理して理解することが難しい。	
	<b>表出コミュニケーションの特性</b> 無言語、自発的表出コミュニケーションが少ない。遅延反響言語、即時反響言語、声の調子やリズム、独特な言葉の選び方、意思交換の困難さ など	自分のイメージ通りにならない時に、癡癡になることがある。	要求や拒否などについて伝えるリマインダー（リスト）を準備する。1対1の場面で、場面ごとのコミュニケーションの仕方について教える。計画的に場面、人、内容の般化を進める。
	<b>社会性・対人関係の特性</b> 一人であることを好む、アイコンタクトやジョイントアテンション、セオリ・オフ・マインドの困難さや独特さ、自発的にかかわりをもつことの困難さ など	周囲の状況を判断して、周囲の人と協働作業をしたり、物を共有に活用して進めることが難しい。自分の行動が、周囲からどのように見られているかを想像することが難しい。	手立てがあってもいいので、自立した設定で社会参加する。共有や協働を助ける手立てを準備する。社会的な振る舞い方は、場面ごとに整理して、事例を踏まえた成功体験で教える。社会的に解決するのではなく、まずは個別の相談で整理する。
全体よりも細部に注目する特性	<b>転導性・衝動性</b> <b>注意・注目の特性</b> 転導的・衝動的な行動、切り替えの困難さ、注目することの困難さ、不注意や多動的行動など	周囲の状況から、今注目しなくてはいけない部分と無視しなくてはいけないことを判断することが難しい。見えていることや興味関心などに引っ張られることがある。視覚刺激や視覚的情報に、注目が転導的に移り変わることがある。	その時点で注目しなくてはいけない部分と無視する部分を、ポイントや見通しと一緒に視覚的に伝える。刺激や情報の統制を行う。必要に応じて追加の刺激の統制を行う。活動場所の配置も工夫する。
	<b>時間の整理統合の特性</b> 先の活動の見通しの難しさ、日程の計画と調整、活動や手順の調整、時間の境界イメージが困難さ、実行機能の困難さなど	周囲の状況から先の見通しをイメージして、活動を調整したり、準備したりすることが難しい。見えているものや自分のイメージを後回しすることが難しい。自分のイメージ通りいかない時の見通しを持つことができない。	日課や活動などの見通し、変更は、文章と絵、リストなどで指示する。活動をいつ・どこでするのか、どうなったら終わりかの情報を伝える。
	<b>空間の整理統合の特性</b> 自分の位置や材料や道具の位置の調整、1つの場所の多目的利用の困難さ、空間の境界イメージの困難さ など	周囲の状況から、材料や道具、資料などの位置を決めたり、調整することが難しい。状況ごとの周囲の人との境界や距離感をイメージすることが難しい。	状況ごとの材料や道具、参考になる位置を平面図や文章などの視覚的な手立てと習慣で決めておく。新しい状況や活動では、配置についての情報を確認できるようにする。
	<b>変化の対応の特性</b> 場所、物、人、予定、習慣の変化の不安・抵抗、1つの状況を保持しようとする、強迫的な行動、ルーティンの必要性 など	似通った活動で、状況が変わると見通しをもったり、準備したりすることができなくなることがある。自分のイメージとは違った状況になると抵抗したり、癡癡になることがある。物など1つの状態（毅然とした状態）を保持しようとする。	想定される変化に関しては、事前に視覚的に予告する。スケジュールなどの見通しの変更に関しても視覚的に伝える。将来的に変化・変更が想定される本人のイメージは、ソーシャルナラティブや図、表などの変化のポイントを説明する。ハードルの低い事例からスモールステップで、成功体験を積み重ねる。
	<b>関係理解の困難さ</b> 関連づけの独特さ、関連づけが難しい、自己流の解釈、字義どおりの解釈、絵などを具体的にとりすぎる など	状況によって変わることを、自己流に判断して限局的に理解するために、変わることがイメージできなかったり、意味がつかめないことがある。	状況によって変わる内容、ソーシャルナラティブや図、表などの変化のポイントを説明する。ハードルの低い事例からスモールステップで、成功体験を積み重ねる。
	<b>般化の特性</b> 習得したスキルや人や物への対応を他の場面、違う文脈で状態が変わる。材料・場面・指導者が変わったときに課題を遂行できないなど	これまで学んだ意味や機能的なスキル、振る舞い方が、状況が変わると同じようにできないことがある。	例題を踏まえた基本は1対1の場面で教える。計画的に事例を踏まえる。事例が深まり、自立度が高まって、場面の般化や応用に繋げる。
記憶の特性	<b>記憶の維持の特性</b> 短期記憶・作業記憶などの維持の困難さ、刺激や情報が入った時の記憶の維持への影響など		
	<b>長期記憶の特性</b> 長期に脳に維持される記憶、経験した記憶が消せない特性、経験したことの正確で部分的繰り返し・再現 など	過去の経験したことや、指示を記憶して修正することが難しいことがある。間違った理解を修正することが難しい。	変化を伴うことは最初から変化を取り入れる。成功体験ベースで教える。できている部分でフィードバックし、内容のゴールの方から成功できるように進める。
<b>感覚の特異性</b> 視覚刺激、聴覚刺激、味覚刺激、嗅覚刺激、触覚刺激などによる反応、拒否、鋭敏さ、鈍感さ など	視覚的な刺激に引っ張られて無視が難しい。	必要に応じて、刺激の統制を行う。	
<b>微細運動・粗大運動</b> 手と目の対応の困難さ、手先の不器用さ、緊張のある動き、柔軟さのない体全体の動き など			
<b>その他の特性</b> 感情のコントロール、不安の状況 など	自分のイメージ通りにならない時に、感情のコントロールが難しくなり、癡癡になることがある。	癡癡時には、無理に論じたり、なだめたりしない。計画的に状況と感情のカテゴリー、度合いなど、本人が気づける形で整理する。各場面では、予告提示で伝える。	
<b>理解に関する特性</b> (何を見て理解できるか)	文章（年齢相応）、単語、絵、図、表、リストの理解が見られる（その他は個人情報シート参照）。文章では行がつまりすぎると混乱する。	本人が理解できる情報で伝える。文章では1文ごとに行間をあける。	

※シートの記入方法に関しては書籍『フレームワークを活用した自閉症支援』（14～17頁）を参考にしてください。検索「自閉症 フレームワーク」